



弘前大学医療技術短期大学部

〔所在地〕 〒 036 弘前市本町 66-1

〔電 話〕 0172 (33) 5111

〔交 通〕 国鉄奥羽本線弘前駅下車、桔梗野・桜ヶ丘
団地行バス、茂森新町・四中校行バス、本
町バス停下車、徒歩 2 分

〔学 科〕 理学療法学科、作業療法学科

〔募集人員〕 各 20 名

〔修業年限〕 3 年（昼間）

〔倍 率〕 理学療法科 4.5 倍、作業療法科 3.6 倍
（昭和 58 年度）

古い屋敷の並ぶ静かな路がいたるところに見られる反面、近代的な建物が建ちならぶ商店街と良く調和のとれた街弘前は、戦災にあうことのなかった城下町の一つで、国宝級の神社仏閣などが多く残っている。こんな緑の多い静かな弘前を人は呼んで東北の京都という。ある外人が「東京の町の雰囲気、若いです。京都はきれいはきれいだ、住む町ではないと思います。私は弘前がいいですね、素朴で昔のまま残っていて好きです。」と言ったそうだが、この言葉の意味が弘前に来た人は充分認知できるのではないと思う。この街は弘前大学を初めとし、女子大学や短期大学など数校を数え学部の特色ももっている。市内には街の面積の 5 分の 1 を占める広大な鷹場城跡がある。春は桜の名所と知られているが、夏は外堀の水面にうつすネプタの影に血を湧せ、秋の紅葉は静かに物を思わせ、そして冬の雪灯籠のほのかなあかりが幻想の世界に引きずりこむ魔力を持つ、すばらしい場所である。疲れた頭を癒すに良く、青春の語にも格好な所でもある。

この鷹場城跡にほど近い、景勝院の五重の塔を背にした弘前大学医学部キャンパスの、高台に建つ学舎が、弘前大学医学部附属看護学校を母体として昭和 50 年に設立された弘前大学医療技術短期大学部である。現在この短期大学部には、看護学科（定員 80 名、昭 50 年設立）、診療放射線技術学科（定員 40 名、昭 52 年設立）、衛生技術学科（定員 40 名、昭 51 年設立）、そして理学療法学科・作業療法学科（定員各 20 名、昭 55 年設立）があり、他に専攻科助産学特別専攻（定員 20 名、昭 50 年設立）がある。

東北地方におけるリハビリテーション医療は漸次盛ん

になってきたが、専門職である理学療法士・作業療法士の数が極めて少なく、その発展の阻害因子の一つとなっていることや、専門職養成のための教官も少ないと言う状態から、その人材を教育する必要にせまられて、東北地方に初めて設置されるに至ったものである。以来設立の主旨にのっとり理学療法学科は、身体に障害をもつ人に対して基本動作能力（坐る、立つ、歩く）の回復を図るため、神経生理学的技術を加味した運動療法や、電気刺激、温熱・寒冷療法、水治療法などによる物理療法を中心に、治療プログラム設定のための筋力や関節可動域の測定、日常生活動作テスト、歩行分析、電気機器を用いるなどの評価技術、さらに身体の欠損部位を補う義肢や、体幹四肢の矯正・支持・免荷などの目的で使用する補装具の適合選定などの知識を習得させることに努力をしている。特色のあるものとして地域リハビリテーション医療に関して、地域市町村の協力を得て学習および実習を行っていることがあげられよう。障害（者）の存在を受容し、人間の喜びや苦しみを感じとれること、常に問題意識を持ち、知識・技術の習得に自己研鑽を惜まぬことを教育目標としている。

作業療法学科としては、全人間性の回復、換言すれば人間として生きがいのある生活を獲得させることを目標として、医学を基礎とし、心理学、教育学、社会学、人間科学など、幅広い学問体系に立脚して、障害者（児）への個別的対応を展開する手だてを習得させることを目指している。治療手段として主に手工芸・美術・スポーツ・レクリエーションなどの作業を用いる。これら作業の持つ意味は、障害者（児）の身体活用と融和することによって、その者の活動に発展してゆく、「作業＝活動」の意味を追求させ、授業のみならず、臨床実習を通じて人間尊重の治療体系を学ばすことに主眼をおいて努力している。設置後日も浅く色々の問題点を解決し、本質的な教育体系の確立に努力を続けているが、なおかなりの期間が必要とされることが考えられる。しかし現在の立場において、今後活躍できる理学療法士、作業療法士の誕生のために最善の努力をしているところである。

（理学療法学科 菅原 正信）

（作業療法学科 鈴木喜八郎）